

2019年7月20日

学校法人三幸学園  
札幌医療秘書福祉専門学校  
校長 梶田 規文 殿

学校関係者評価委員会  
委員長 笹田 直人

## 学校関係者評価委員会実施報告

2018年度学校関係者評価について、下記のとおり評価結果を報告します。

### 記

#### 1 学校関係者評価委員

- ① 笹田 直人（札幌山の手リハビリセンター）
- ② 佐藤 舞（札幌中央病院）
- ③ 濱田 朋里（札幌禎心会病院）
- ④ 久保 博文（王子総合病院）
- ⑤ 薄井 智也（耳鼻咽喉科麻生病院）
- ⑥ 佐々木 亮（北海道厚生農業協同組合連合会）
- ⑦ 渋谷 由美子（北海道大野記念病院 第4期卒業生）
- ⑧ 萬 昭宏（杜の会）
- ⑨ 大谷 貴浩（手稲リハビリテーションセンター）

#### 2 学校関係者評価委員会の開催状況

2019年6月27日（会場 札幌医療秘書福祉専門学校 302教室）

2019年7月4日（会場 札幌医療秘書福祉専門学校 図書室）

#### 3 学校関係者委員会報告

以下「自己評価・学校関係者評価報告書」に学校関係者評価委員会コメントとして記載

以上

# 2018年度 学校法人 三幸学園 札幌医療秘書福祉専門学校 自己評価及び学校関係者評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 植野 いずみ

学校関係者評価報告責任者：学校関係者評価委員会委員長 笹田 直人

## 1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、医療・福祉分野の学校として「医療、福祉現場を通じて日本を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、医療・福祉分野として「相手のこうしてほしいを理解し、考え動ける人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

## 2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

### ① 前年度重点施策振り返り

・生徒に対して「生徒のモチベーション向上計画」と「生徒が自走できる仕組み導入計画」を施策としていた。モチベーションの向上は出来ているが、自走する仕組みに関してはまだまだ検討が必要。検定へのモチベーション向上のため、教科担当と連携をして担任からも生徒に対して勉強の導入等を行う事ができた。自走できる仕組みに関しては、実習などを通して受け身だけではなく積極的に声掛けができるように指導した。

・教員に対し「教員間の連携を強化し、望む結果が得られるよう生徒一人一人にあった関わりを持つ」を施策とした。教科担当と担任の枠を超えて、連携が取れるようになっている。教務担当の発信で、アンケートの振り返りや、授業見学月間を通じて、教科担当が互いの授業のアドバイスをを行い、授業の質の向上を図ることができた。また生徒状況等に関しては、担任が不在の場合は気になる生徒についての情報を伝えることを徹底し、担任からは連絡帳を通して発信する事により情報共有の徹底を行った。

・就職先に対し「互いのニーズを理解し求めあえる関係づくりに貢献する」を施策とした。

件数ではなく、訪問内容の強化を実施し就職先から好評を得る事ができた。具体的には、求人が届いたら就職先に連絡を行い、望む人材像を共有していただいた。面接試験だけでは決められない場合に対しては、実習を数日実施していただき、採用の有無を検討していただく事により、内定後の不一致を無くすことができた。早期研修を行っている生徒に対しては、積極的な訪問や連絡で生徒の様子を確認する等、内定先に任せきりにしないよう実施した。

### ② 学校関係者評価委員会コメント

・渋谷委員(医療秘書科について)

早期就職者が一度学校に戻った際に受けた事例を共有する授業が、悩んだ時に思い返せてよかったと言っていた。モチベーションを維持するために有効な授業なので今後も継続してほしい。

・久保委員(診療情報管理士科について)

昨年度求人募集の際に見学をしてもらった。病院と生徒がマッチングできるので、そういった取り組みが有効と考える。

・薄井委員(医療秘書科について)

採用条件に2週間の実習をすることを入れている。今の生徒は状況を見せることも大切なので、学校側もそういった状況を理解した上で生徒を送ってほしい。

・濱田委員(診療情報管理士科について)

就職は納得した上でできてもらうことが大切なので、見学をしてもらっている。退職の予防策は企業が考えていくことである。学生とのズレは生じるものなので、こういった会議等を通じて病院と学校の考え方を合わせていくことが大切である。

・佐藤委員(診療情報管理士科について)

昨年度就職を希望する生徒の方から見学希望の電話があり、その後学校から正式な依頼があった。そういった取り組みは非常によいと思う。また採用前に実習していただくのも有効だと感じた。

・笹田委員(介護福祉科について)

生徒はどのようにして就職先を探しているのか疑問を感じる。施設側としても、実習に来ていない生徒にどのように施設を見てもらうかを課題と考えている。見学に来ていただき、こちらがプレゼンをさせてもらう機会を年3回設定しているので、こういった機会を利用してほしい。ボランティアに来ていただくのもよいが、普段の生活も見てほしいと考えている。また、生徒には労働条件を聞く力をつけてほしい。自分の給料も知らずに働きにきている生徒もあり、そういった生徒は早めに退職する傾向がある。逆に基本給や夜勤手当等の知識をもっている生徒はミスマッチが少ないので、長く仕事を続けることができている。求人票の見方をぜひ授業で扱ってほしい。

・萬委員(介護福祉科について)

当施設でも、まずは実習生に就職してもらうことを考えているが、先輩の生の声を聞かせることが有効と考えている。昨年度は一学年上の先輩職員に講話をさせた。そういった機会を学校でも設定していくとよいと考える。また就職先を知る方法として、求人票の他に施設のホームページをよく見ることも挙げられる。

### 3.評価項目の達成及び取組状況

#### (1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	3
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3

#### ① 課題

教育理念や目標などを保護者に周知する機会が昨年度よりも増えたが、生徒には日々はもちろん、行事や就職活動などを通じて自ら考えられるような仕組みが必要である。

学校の理念や目的は普遍的なものであり、継続的にまた様々な形で伝えていく必要がある。

業界のニーズを把握するためにも、産学連携を強化し時代の先を読むことが重要である。そのためにも教職員が外部との交流の機会を増やし、業界の動きに柔軟に対応し続けることが必要不可欠である。

#### ② 今後の改善方策

理念や目的を伝えるだけでなく、保護者には理解していただくことも今後重要になっていく。また長期就労を視野に入れた場合、保護者の業界理解も必要となってくる。そのため新入生の保護者のみならず、就職学年の保護者に向けて業界理解を深める保護者会の実施をしていくようにする。その際にはぜひ業界の皆様や業界で活躍している卒業生に來校してもらい、現場の生の声を聴き、将来像をイメージしやすくするとともに、就職後に家庭での支援ができる環境を整えていく。

生徒には周知する機会を作ることはできるが、業界との接点を増やすことをしなければならない。

そのために、行事や実習など接点がある機会に良い関係性を築き、就職ガイダンス等の講話につなげていくようにする。

#### ③ 特記事項

特になし

#### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・渋谷委員（医療秘書科について）

看護クラークという呼び名は医療機関によって認識や呼称が異なるので、生徒や保護者にも伝わりづらいのではないかと考える。また保護者に行事（プレゼンテーション大会）を参観していただくと学校の様子が伝わるのではないかと。

・久保委員（診療情報管理士科について）

医療団体が主催する研究会や研修会、セミナーといったものに教員や生徒が参加することで、現場を肌で感じてもらえるのではないかと。外部と接触することをさせてもよい。また離職を防ぐためにも保護者を巻き込むことは効果的と感じる。理念を納得、理解してもらうための伝え方が重要である。

・萬委員(介護福祉科について)

保護者が卒業生であった場合、学費を免除するといった取り組みは大学でも行っているので、そういったことを行ってもよいと思う。

・笹田委員(介護福祉科について)

当法人では近年障がい者雇用も進めている。学校も、そういった生徒への多様な対応を今後行っていく必要があると考える。また、保護者会の参加率が50%と伺ったが、素晴らしいことだと感じた。

## (2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	3
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	3
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

### ① 課題

「働き方改革」が推進され、業務の効率化とともにライフワークバランスの見直しがされているが、不十分な面も多く業務改善や慣例業務の取捨選択の必要がある。

情報システム化に伴うソフト面の準備は進んでいるものの、ハード面が追いついておらず、効率化につながるまでにはまだ時間を要する。

コンプライアンスの意識向上は進んでいるが、コンプライアンスも多種多様になっており、時代とともに変化・発展し続けることが課題である。

### ② 今後の改善方策

「すべき仕事」と「すてる仕事」を明確にし、業務のスリム化を図っていく。特に恒常化されている業務においては、必要業務なのか精査していく。

コンプライアンスは、変化していくと捉え新入教職員をはじめ、全職員で意識を持たせる。学園のスケールメリットを活かし、事例を共有していく機会を増やしていく。

情報のシステム化には、環境導入だけではなく、使いこなす知識・技術が必要となるため研修を実施していく。業務改善案を職員全体から公募する。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・濱田委員（診療情報管理士科について）

当病院では月の残業をほぼ5時間にすることができている。取り組みとしては、業務改善を積極的に行わせ、事後でよいので報告を徹底させている。どんどん業務の取り組み方を変化させていってもよいのではないかと考える。

・久保委員（診療情報管理士科について）

当法人の新入職員には、在職1年後に業務マニュアルを自分なりに作成し直させている。こういった方向性もよいと考える。

薄井委員（医療秘書科について）

エリア担当教員を増やすと業務軽減できるのではないかと考える。また教員と事務職員で採用を分ける方法もある。

### (3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	3
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	3
関連分野における実践的な職業教育(産学連携によるインターンシップ、実技・実習等)が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格(免許)取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含め)の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	3
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	3
職員の能力開発のための研修等が行われているか	3

#### ① 課題

産学連携がまだ発展途上であり、今後様々な形で進めていく必要がある。外部関係者からの評価をいただけるタイミングが実習の評価と限られているため、結果の活用はもちろんのこと意見をいただける機会を増やしていくことが大きな課題である。また意見をいただける信頼関係の構築も急務である。

カリキュラムについては編成、見直しが内部で行われているが、外部の意見を取り入れていく必要がある。

現在も関連業界にいらっしゃる方に実際に教員として授業していただき、最先端の情報や今必要としているニーズなどをもっと増やしていく必要がある。

#### ② 今後の改善方策

カリキュラム変更・シラバス公開に伴い、多くの業界の方にシラバスを見ていただける環境は整ったので、意見をいただける関係構築に注力をしていく。教員が学生を輩出することにより業界貢献している意識をもち、18歳人口の低下に関わらず、長期にわたり学生を輩出できる関係性を築いていく。そのために意見を聞くだけでなく、卒業生のフォローや昨今の学生状況・育成方法の難しさなどの情報提供をしていくのも一つの方法である。

実習中以外にも訪問し、関連業界との繋がりを強化するとともに情報をいただき、全教員へ共有するとともに生徒への指導にも役立てていく。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・久保委員(診療情報管理士科について)

昨年度研究発表会に呼んでいただいたが、結果だけでなく発表までの過程を見ることができると、生徒の成長も見ることができ、評価する際に役立てることが可能になり、よいと考える。

・薄井委員(医療秘書科について)

現場の方に評価されることは効果的である。そういった機会を学校が積極的に作っていくことが大切である。

・大谷委員(介護福祉科について)

昨日法人内で開催した研修会に、貴校の生徒と教員に来ていただいた。対等な立場で意見交換を行い、お互いの評価をしあうことができ、非常に有効な学びの機会であったと感じた。今後も続けていきたい。



#### (4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格(免許)取得率の向上が図られているか	3
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	3

##### ① 課題

昨年同様、就職率・検定取得率に関しては低くはないが、現状維持となっている。向上していくためには、継続的な対策が必要であり、卒業学年に適切な対策をいち早く見極め実施していかなければならない。

昨今、精神的に脆い学生が増えており、そこから目的喪失となり退学に至るケースが増加している。そのため退学率の低減が最重要課題であるとともに、年々対策が難しくなっている。

学習習慣の少ない生徒も多く、資格取得へのモチベーションの維持が必要と感じる。

##### ② 今後の改善方策

担任力向上が、就職率・資格取得率に直結するため、担任力を上げるとともに担任のあり方を学園全体としても検討するタイミングとなっている。担任力を上げるために、年次に関わらず担任指導者を設置し、ホームルームの進め方や学生とのかかわり方、時には面談にも同席するなど、支援できる環境を整えていく。

精神的に弱い学生が増えているため、教職員が対応方法を研修し接していくとともに、実習先にも理解を求め共育していく環境を創っていく。

ひとりひとりの変化に気づき丁寧に対応できるよう、自由に見学しあえるオープンなクラス運営を目指し、HR見学を行う。

##### ③ 特記事項

単位制移行に伴い、検定ウィーク中の放課後の使い方や空き時間の勉強会など、検定ウィークを効果的に実施する方法を考えていきたい。

##### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	3
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3
課外活動に対する支援体制は整備されているか	3
学生の生活環境への支援は行われているか	3
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	2
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	3

### ① 課題

在校生に対しての支援体制は整備されているが、保護者や卒業生、中途退学者への支援は不十分である。経済的側面に対する支援はあるが、支援を必要とする人数(需要)に対しては、すべて対応(供給)しきれていない。また必要としている支援として、学校に求められるものと学校が実際に支援できるものとの差異があり、時代に合わせた支援を確立していく。

就職をゴールと設定するのではなく、あくまでもスタートと捉え、長期就労の支援を整備していく。その為には保護者の理解はもちろんのこと、卒業生の支援も重要である。現在、卒業生へのキャリア形成(転職・再就職)のアプローチは皆無であり、卒業後に頼れる母校としての確立や窓口の設立が必要である。

### ② 今後の改善方策

保護者との信頼関係、業界理解への取り組みは重要である。引き続き、保護者会の実施、保護者会の内容の見直しを随時行っていく。そして、保護者を巻き込む支援を行っていく。

学園全体で卒業生の繋がり強化の一環として、専用 WEB ページの立ち上げを実施。今後はページの認知拡大と卒業生対応窓口の設置がポイントとなる。合わせて再就職支援の仕組みづくりを行う。

学びの多い課外活動は、ボランティアやカタリズで積極的に支援していきたい。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・久保委員(診療情報管理士科について)

生徒が退学する理由が職種に対する方向性の違いであるなら、転科させることも対策の一つであると考える。

・薄井委員(医療秘書科について)

中途退学者への支援は、学校単体としてではなく学園全体で体制を整えていくとよいのではないかと。

・佐々木委員(医療秘書科について)

中途退学をさせない取り組みも重要だと考える。

・笹田委員(介護福祉科について)

学校でぜひアルバイトの斡旋をしていただきたい。平日はもちろん長期休業中にも来ていただければ、勉強にもなる。また就学支援については、そういった取り組みが就職につながるのであれば施設側にもメリットはあり、生徒も集まりやすくなると考える。札幌市以外の地域ではすでに行っている法人もあるので、学校が窓口になっていただけたらよい。

・萬委員(介護福祉科について)

アルバイトや就学支援については、ニーズがあるのであれば当法人でもぜひご協力させていただきたい。アルバイトについては、実習とは違った学びがある。無資格でも問題ない。また中途退学者への支援体制の自己評価が2となっている点について、ぜひこれから何ができるか考えていただきたい。

## (6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	3

### ① 課題

防災に対して生徒の意識を向上させていく必要性がある。

校内の教室環境が整備されつつあるので、次はそれを最大限に生かし、教育成果に繋げていく必要がある

### ② 今後の改善方策

今年度、クリニック室が新設されシミュレーションができる環境は整ったが、さらに現場に即して実践的な授業展開でできるようシラバスやカリキュラムを見直していく。

防災に関しては、昨年の地震やブラックアウトを教訓に HR で伝えていく。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (7)学生の受入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

### ① 課題

北海道や北海道専修学校各種学校連合会の規定に従い、適切に実施しているため課題はない。

### ② 今後の改善方策

特になし

### ③ 特記事項

昨年同様、18歳人口が減少している中で専修学校は当校のみならず、学生募集に苦戦しているのが現状。いかに選ばれる学校であり続けるかが重要となる。検定取得率・就職率向上はもちろんであるが、引き続き、人間教育にも更に力を入れ、教務においても安心して預けられる学校にならなければいけない。

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

### ① 課題

#### 【中長期計画】

なし

#### 【予算・収支計画】

なし

#### 【会計監査】

なし

#### 【財務情報の公開】

なし

### ② 今後の改善方法

#### 【中期計画】

一昨年度に第2次中期計画を策定している。今後は当該計画の公開に向けて着手していく予定である。

#### 【財務情報の公開】

なし

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

### ① 課題

外部からの意見を頂く機会は以前より増えたが、まだ不十分である。

### ② 今後の改善方策

より多くの外部評価を頂き、学校教育に取り入れた上でより精度の高い改善を実行する。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

特になし

## (10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	3

### ① 課題

人材輩出の面において社会貢献との見方もできるが、あくまでも一面であり、不十分である。  
ボランティア等で地域貢献しているが、分野が偏っているためこちらもまだまだ不十分である。

### ② 今後の改善方策

今後の人材不足の観点からも卒業生の支援を強化することにより、離職率を低下させ社会貢献をしていく。  
産学連携を深め、ボランティアなどの地域貢献を行う。学科の連携を強め幅広いボランティアに対応できるよう内部環境も整えていく。

### ③ 特記事項

特になし

### ④ 学校関係者評価委員会コメント

・濱田委員（診療情報管理士科について）

病院内では案内等少なからずボランティアの機会がある。

・久保委員（診療情報管理士科について）

案内や車いすの準備等ボランティアの機会は設定できるが、学校として生徒にどんな経験をさせたいかという方向性によって、ボランティアの内容が変わってくるので、そこをしっかりとっていただきたい。

・渋谷委員（医療秘書科について）

病院が実施するイベントのボランティアを募集しているので、そういった機会を利用してほしい。

・薄井委員（医療秘書科について）

ボランティアの機会を人間形成の場に繋げることができれば、離職率の減少にも効果的であると思う。ぜひ積極的に行っていただきたい。



#### 4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

- ・人間関係の教育、形成をしっかりと行っていく。
- ・第一線で活躍している現場の方にお越しいただき、仕事の魅力や長期就労について生徒に向けて講話をしていただく。
- ・卒業生で若手(社会人 1 年目～3 年目ぐらい)にお越しいただき、学生時代の勉強内容などアドバイスをしてもらう。
- ・産学連携を強めるために、ボランティアを募集している医療機関や福祉施設に学生を送り、社会貢献をしていく。
- ・内定先に卒業生の様子を確認するために、訪問やアンケートを取り、フォローを徹底していく。
- ・検定取得のためだけの授業ではなく、現場で活用できる実践的な授業を今後も実施していく。
- ・上記に関して単発で行うのではなく、長期的に実施できる仕組み作りをする。